

都内産の果実

東京都産業労働局農業振興事務所
振興課技術総合調整係

担当係長 窪田 洋二

東京の果樹面積は野菜について第2位（13%）、生産額は農業全体（287億円（H17））の11%（10.8億円）で、野菜、花卉について第3位です。他の作目同様、面積は年々減少していますが、減少率は低く、ブルーベリーのように増加している品目もあります。

主要果樹は、ナシ、ブドウで、その他クリ、ウメ、カキ、キウイフルーツ、ブルーベリー等です。いずれも面積、生産額は少ないですが、生産者は大消費地の中の生産地という利点を生かし、東京オリジナル果実の直売（直接販売）で経営しています。

また、伊豆および小笠原諸島ではパッションフルーツ、マンゴー、レモン等の熱帯果樹が、山梨県境に近い八王子市恩方ではリンゴ等の寒冷地果樹も生産されています。

生産の歴史

東京での果樹栽培の歴史は古く、ナシ、カキ、クリ等は江戸時代から生産されています。明治・大正期は運

送手段が十分に発達していなかったため、鮮度が求められる果実は、東京近郊で多く生産されていました。このため大正後期には、多摩川流域のナシ・モモ、南多摩のカキ、北多摩のクリ等の産地が形成されました（表1）。

このような歴史的背景から、古くからいろいろな新品種が東京で生まれています（表2）。

どこでどのような果実が生産されている？

1) ナシの生産状況

栽培面積は99ha、収穫量は2,700t（H17）で、主要品目であるナシでも、全国的には面積、収穫量とも1%に過ぎません。

価格は、400～1,000円/kgです。この価格は市販品に比べやや高めを感じるかもしれませんが。これは贈答・宅配中心で高品質であることと、様々な品種を販売していることに起因しています。

収穫時期は「幸水」を中心に8月中旬から始まり、8月下旬～9月上旬の「豊水、稲城」でピークとなります。

| 表1 東京に関連する果樹品種 | | | | | | | |
|----------------|-----|--------|-------|------------|-------------------------------|----------------|-----------------------------|
| 品 種 | 作目 | 登録、公表年 | 公表方法 | 育成者 | 育成者住所 | 交配親 | 備考 |
| 都内育成品種 | | | | | | | |
| 倉方早生 | モモ | 1951 | 昭和26年 | 名称登録36号 | 倉方英蔵 | 目黒区中目黒 | (タスカン×白桃)×晩生種 朝鮮半島で交配 |
| 豊多摩早生 | クリ | 1911 | 明治44年 | 命名 | 市川豊兵衛 | 杉並区荻窪(豊多摩邸併設村) | 伊吹の親品種となる |
| 関 野 | クリ | | | | 庭田五郎兵衛 | 小金井市関野 | |
| 稲 城 | ナシ | 1947 | 昭和22年 | 公表 | 進藤益延 | 稲城市 | 新高×八雲 |
| 清 玉 | ナシ | 1952 | 昭和27年 | 名称登録45号 | 川島琢蔵 | 稲城市東長沼 | 二十世紀×長十郎 黒斑病抵抗性、民間育種の先駆け |
| 吉 野 | ナシ | 1937 | 昭和12年 | 命名 | 原田正治 | 稲城市矢野口 | |
| 梅 郷 | ウメ | 1969 | 昭和44年 | 名称登録213号 | 青木就一郎 | 青梅市畑中 | |
| 玉 英 | ウメ | 1961 | 昭和36年 | 名称登録144号 | 野本英一 | 青梅市二俣尾 | |
| 田 中 | ビワ | 1888 | 明治21年 | 公表 | 田中芳男 | 文京区本郷 | 茂木実生？ 大日本農会に公表 |
| クリーミ三鷹 | キウイ | 1994 | 平成6年 | 命名 | 小林精一 | 三鷹市牟礼 | 中国導入品種実生 |
| 多摩ゆたか | ブドウ | 1996 | 平成8年 | 種苗登録5203号 | 芦川孝三郎 | 調布市富士見町 | 白峰自殖実生 旧東京都農業試験場(現農業総合センター) |
| 育成品種 | | | | | | | |
| 高 尾 | ブドウ | 1975 | 昭和50年 | 名称登録264号 | | | 巨峰自殖実生 1956年は種 |
| 白 峰 | ブドウ | | | 公表 | | | 巨峰自殖実生 |
| 黒 曜 | ブドウ | 1984 | 昭和59年 | 命名 | | | 巨峰×スカットオアプレキナンドリア |
| 多 摩 | ナシ | 1971 | 昭和46年 | 公表 | | | 祇園×幸水 |
| 東京御所 | カキ | 1984 | 昭和59年 | 種苗登録1561号 | | | (富有×晩御所)×花御所 |
| 東京紅 | カキ | 2005 | 平成17年 | 品種登録12720号 | | | (富有×晩御所)×花御所 |
| 導入品種 | | | | | | | |
| デラウェア | ブドウ | 1872 | 明治5年 | | 開拓使(かつては明治15年(1882)小沢善平といわれた) | | アメリカより |
| その他関連品種 | | | | | | | |
| 菊 水 | ナシ | 1927 | 昭和2年 | 公表 | 菊池秋雄 | 農林省園芸試験場平塚分場 | 大正4年(1915)、東京府立 |
| 八 雲 | ナシ | 1927 | 昭和2年 | 公表 | 菊池秋雄 | 農林省園芸試験場平塚分場 | 園芸高校玉川果樹園にて交配 |
| 新 高 | ナシ | 1927 | 昭和2年 | 公表 | 菊池秋雄 | 農林省園芸試験場平塚分場 | |
| 江戸一 | カキ | | | | | | 関東地方に多い |
| 禅寺丸 | カキ | 1214 | 建保2年 | 発見 | 等海上人 | 神奈川県柿生 王禅寺 | 町田市他で多く植栽 |

表2 東京の果樹生産の概略

| | |
|----------|-------------------------------|
| 明治以前 | ナシやカキなど従来の果樹を生産 |
| 明治時代 | 近代的果樹園経営の始まり |
| 明治政府の開拓使 | 東京巨園 13種類294品種をアメリカから導入 |
| | 北海道に新農法を移す中継基地とした |
| | また、民間に配布し、果樹栽培を奨励した |
| | このため、東京は果樹情報の発信基地的役割を果たす |
| 明治33年 | 東京府農事試験場設立（中野） |
| | 各種果樹の試作と苗木の生産・供給 |
| 大正時代 | |
| 大正13年 | 東京府農事試験場 立川に移転 |
| 昭和2年 | |
| | 東京府立園芸高校玉川果樹園で育成された、ナシ新高が名称登録 |
| | 多摩川ナシ、南多摩の生ガキ、北多摩のクリの産地ができる |
| | 太平洋戦争により、果樹のほとんどは伐採される |
| | 戦後 多摩川ナシの復活 |
| 昭和36年 | 果樹農業振興特別措置法制定 |
| | 都内でも果樹の新植の気運が高まる（ブドウなど） |
| | ウメ玉英の名称登録 |
| | 高度経済成長期 |
| | 観光もぎ取りナシ園がはやる |
| | 都市化による赤星病の被害 |
| | クリタマバチ被害 |
| 昭和47年 | ブドウ高尾育成と種苗登録 |
| 昭和50年前後 | 長十郎の衰退 |
| | 「豊水」、「幸水」時代の始まり |
| | もぎ取りから宅急便利用による直売へ |
| | 恩方リンゴ、東京リンゴの始まり |
| 昭和53年 | 三鷹のキウイ栽培、 |
| | ブルーベリー |
| 昭和59年 | カキ東京御所の育成と種苗登録 |

その後、10月上旬に「新高」を販売し終了するのが一般的です。

主要生産地域は多摩川流域（多摩川ナシ）で、稲城市は栽培面積の33%、収穫量では約40%を占めています。また、多摩湖周辺（多摩湖ナシ：東村山市、武蔵村山市、東大和市）、小平市（小平梨）および西東京市（保谷梨）でも生産されています。

2) ブドウの生産状況

栽培面積は42ha、収穫量は379t（H17）で、ここ数年は360t前後を推移しています。

価格は、1,500～2,000円/kgです。やはり高く感じるかもしれませんが、理由はナシと同様です。

販売の中心は旧都農業試験場（現農業総合研究所）育成の「高尾」（品種の56%）で、東京ブランド品種となっています。近年は「巨峰」を交配親とする「藤稔」をはじめ、様々な品種の種なし（無核）栽培が増えています。また、皮ごと食べられるヨーロッパ系品種も試作が始まっています。

販売は8月下旬の「高尾」がピークで、その後9月中旬まで続きます。

主要生産地域は、稲城市で約20%、この他練馬区17%、世田谷区、調布市10%の生産となっています。昭和50年代から、北多摩地域（西東京市、清瀬市、東村山市等）での生産も増えています。

3) クリの生産状況

栽培面積は594ha、収穫量は656t（H17）で、650t前後を推移しています。

品種割合は、「利平くり」33%、「筑波」15%、「出雲」

果実となっています。

7) ブルーベリー

栽培面積は23.8ha（H17）、4年前（H13）に比べ約1.7倍に急増しています。収穫量も157.1t（H17）で4年前に比べ約4倍に増加しています。

主力品種はラビットアイ系品種の「ティフブルー、ホームベル」です。販売はつみ取り園方式で、7月中下旬～8月下旬を中心に行われています。価格は1kgあたり2,000円です。

主要生産地域は練馬区、国分寺市、小平市および日野市です。この他の地域でも新植が進んでいます。

学校給食への導入事例

地場農産物利用で有名な日野市では、ブドウとナシを利用しています。ナシは給食利用に理解ある生産者

13%、「丹沢」7%の順です。「利平くり」以外の品種はあまり聞き慣れないと思います。

販売は、「出雲、丹沢」等が8月下旬から出荷されます。生産量は少ないですが出荷時期が早いことから、比較的高く市場で取引されます。次に「利平くり、筑波」が9月中旬から収穫され、収穫のピークはこの時期となります。大産地からの出荷も多くなり、価格は市販品と同程度になります。

主要生産地域は、八王子市（19%）、町田市（11%）、あきる野市（17%）および日の出町（6%）です。特にあきる野市産のクリは「秋留の栗」として市場出荷されています。

4) ウメの生産状況

栽培面積は258ha、収穫量は318t（H17）です。品種割合は、「白加賀」44%、「梅郷」22%、「玉英」8%の順です。その他は「小向」といわれる在来品種の仲間です。6月上旬から青ウメの販売が始まり、7月中旬の梅干し用まで収穫が続きます。価格は市販品と同等と思われるますが、規格や等級により幅があります。

主要生産地域は、青梅市（26%）、あきる野市（12%）、八王子市（14%）および町田市（7%）で、特に青梅市産のウメは業務用として2kg箱で市場出荷されています。近年は梅干しまで加工し直売する販売形態も多くなっています。

5) カキの生産状況

栽培面積は53ha、収穫量は436t（H17）で、ここ数年400t前後を推移しています。

品種割合は、「次郎」といわれる品種の仲間が約60%です。また「富有」といわれる品種の仲間が約35%で、これらでほとんどを占めています。

10月下旬から収穫されますが、ピークは11月中旬です。地域によっては12月まで販売が続きます。

主要生産地域は、区部では練馬区（14%）と板橋区（3%）があり全体の約20%を占めています。この他、町田市、稲城市（5%）、東久留米市（9%）および東村山市（8%）があります。都内各地で様々な品種が生産され、季節感を表わす果実として都民に親しまれています。

6) キウイフルーツ

栽培面積は16ha、収穫量は193t（H17）でここ数年は190t前後となっています。主力品種は「ヘイワード」で、市販品と同じ品種です。果肉の黄色い品種の生産も少量あります。販売は11月上旬からはじまり、年明けまで続く地域もあります。

カキ同様、都内各地で生産されています。特に三鷹市は、都内で早くから産地化が進み、地域を代表する

が低価格で出荷、ブドウは出荷した生産者に対して生産組合が価格補填をしています。このように、直売と市販品の価格差等で苦慮する部分が多いようです。また、ブルーベリーでは摘み取り体験したものを保育園給食で活用しています。この他、稲城市（ブドウ、ナシ）、東村山市（キウイ）他に、取り組みがみられます。

さいごに

毎年、果樹を生産している地域では、収穫時期や収穫直前に、果実品評会や作柄検討会が開催されます。また、11月には農産物全体の品評会も開催されます。一般公開される場合が多いので、このような機会を利用し地域の果樹栽培状況を把握するとともに、生産者と話し合いのきっかけを持ってみてはいかがでしょうか。